

製品名: EMR2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10447**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	EMR2
別名	EMR2; EGF-like module-containing mucin-like hormone receptor-like 2; EGF-like module receptor 2; CD antigen CD312
遺伝子 ID	30817.0
SwissProt ID	Q9UHX3
免疫原	抗血清はヒト EMR2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 765-814

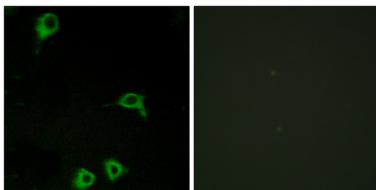
背景

この遺伝子は、G タンパク質共役受容体のクラス B 7 回膜貫通型 (TM7) サブファミリーのメンバーをコードします。これらのタン

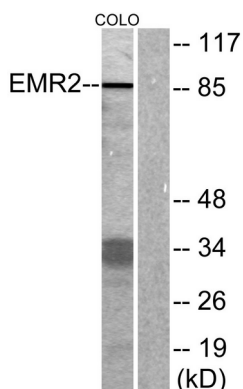
パク質は、ムチン様スペーサードメインを介して TM7 ドメインに結合した、可変数の N 末端上皮成長因子様ドメインを持つ拡張した細胞外領域を特徴とします。コードされているタンパク質は主に骨髄細胞で発現し、コンドロイチン硫酸鎖との相互作用を介して細胞間接着を促進します。この遺伝子は、19 番染色体上の関連遺伝子クラスターに位置しています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 8 月]、代替産物: 多数のアイソフォームが生成されます。様々な数の EGF 様ドメインからなる多数のアイソフォームが存在すると考えられます。最初の TM ドメインの直前に終止コドンを導入したフレームシフトによる可溶性形態も検出されています。ドメイン:コンドロイチン硫酸への結合は、4 番目の EGF ドメインによって媒介されます。ドメイン:GPS ドメインは必要ですが、受容体の切断には十分ではなく、細胞外柄全体が必要です。機能:細胞接着に関与している可能性のある受容体です。PTM:タンパク質分解によって 2 つのサブユニット (細胞外アルファ サブユニットと 7 つの膜貫通サブユニット) に切断されます。類似性:G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。LN-TM7 サブファミリーです。類似性:1 つの GPS ドメインを含みます。類似性:5 つの EGF 様ドメインを含みます。サブユニット:7 つの膜貫通部分に非共有結合でリンクされた大きな細胞外領域からなるヘテロ二量体を形成します。コンドロイチン硫酸と相互作用する。組織特異性:発現は骨髄系細胞に限定されている。末梢白血球で最も高い発現が認められ、次いで脾臓とリンパ節であった。胸腺、骨髄、胎児肝、胎盤、肺では中程度から低いレベルの発現が認められたが、心臓、脳、骨格筋、腎臓、膵臓では発現は認められなかった。単球 / マクロファージおよび Jurkat 細胞株でも発現が認められたが、試験した他の細胞株では認められなかった。

研究分野

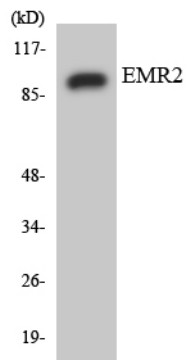
画像データ



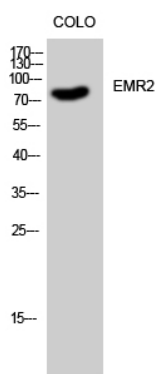
EMR2 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



EMR2 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



EMR2 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



EMR2 ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析